

2011年度第2四半期業績の概況



三菱自動車工業株式会社

2011年10月28日

2011年度第2四半期 決算 及び 2011年度 通期業績見通し



『MINICAB-MiEV』(実証試験車)

青 砥 修 一

常務取締役 (CSR・管理・経理統括部門担当)

2011年度第2四半期決算サマリー【6ヵ月累計、前年同期対比】

歴史的円高の厳しい事業環境ながら、前年同期比台数増、増収、増益

(単位: 億円, 千台)

	FY10上期 実績①	FY11上期 実績②	差 ② - ①	FY11上期計画 8/1公表値
売上高	8,647	9,075	+428	8,800
営業利益	69	342	+273	180
経常利益	70	233	+163	130
当期利益	-49	106	+155	0
販売台数 (小売)	476	519	+43	518
販売台数 (卸売)	521	530	+9	510

※注) 販売台数は11年度から新カウント方式採用、10年度実績も新カウントへ置き換え済み。(添付資料ご参照) 11年度第2四半期販売台数実績は速報値。

地域別販売台数実績【地域別6ヵ月累計、前年同期対比】

日本	北米	欧州	アジア・その他地域	合計
----	----	----	-----------	----

《前年同期対比増減》

-17
(-19%)

+18
(+41%)

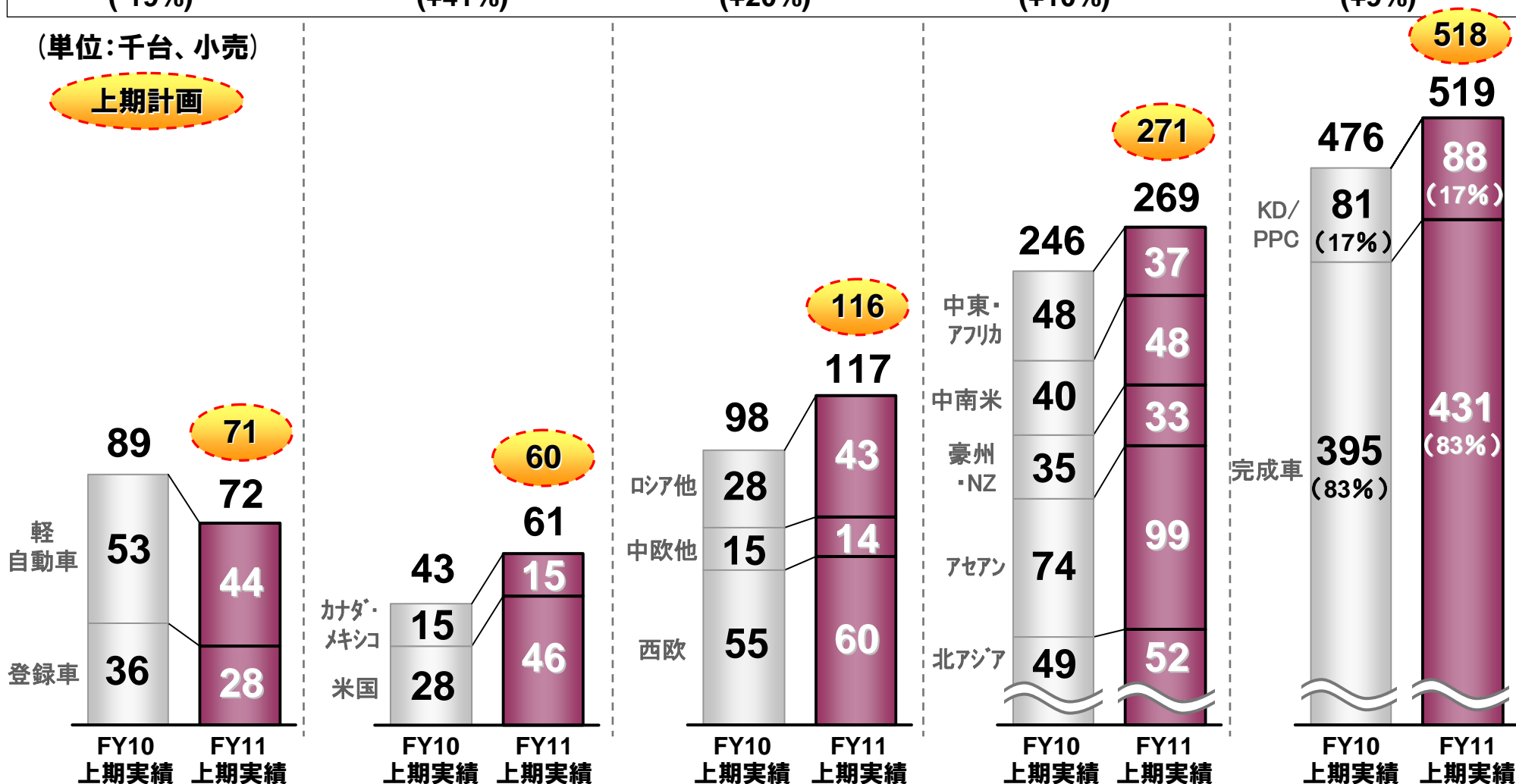
+19
(+20%)

+23
(+10%)

+43
(+9%)

(単位:千台、小売)

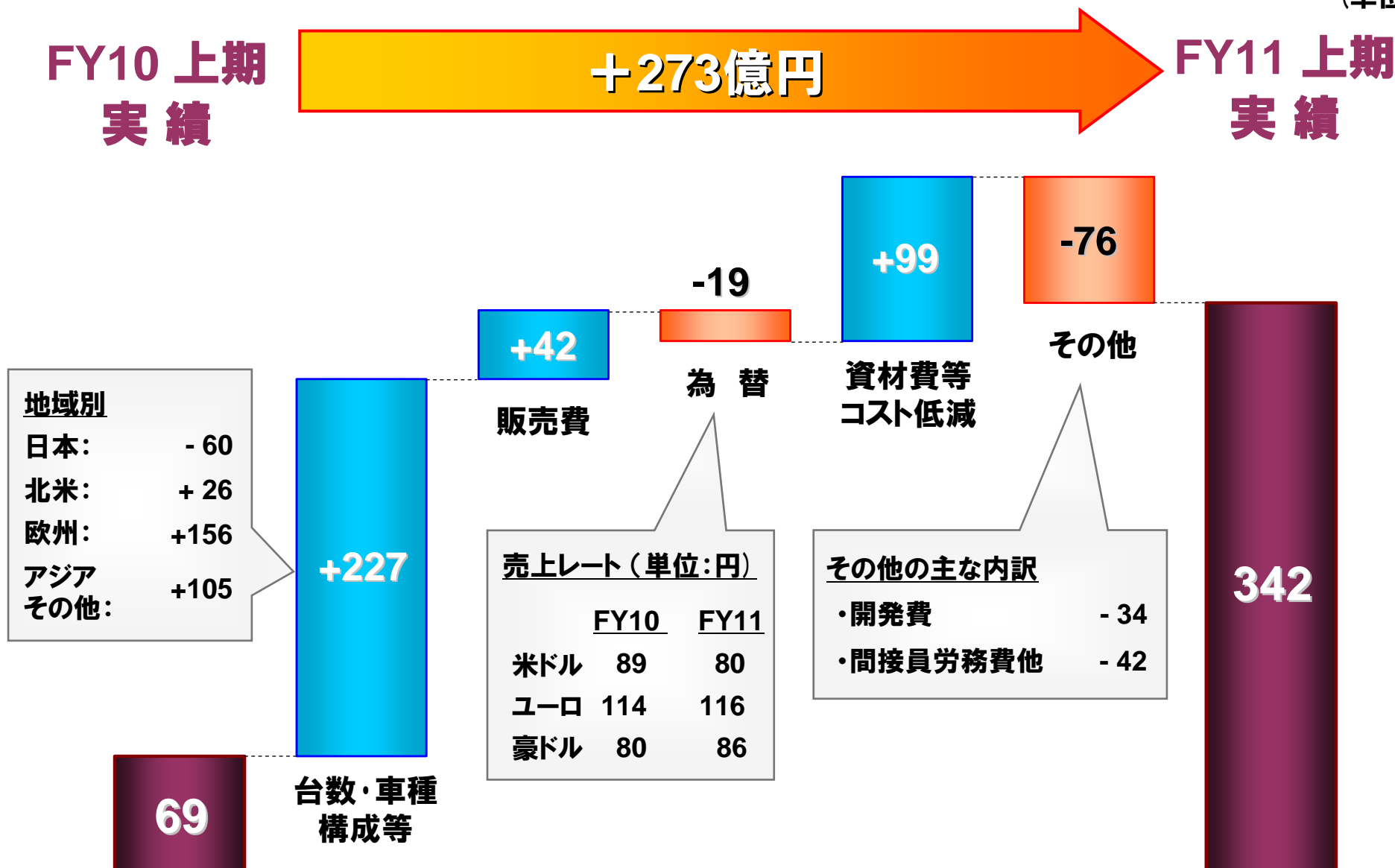
上期計画



※注) 販売台数は11年度から新カウント方式採用、10年度実績も新カウントへ置き換え済み。(添付資料ご参照) 11年度第2四半期販売台数実績は速報値。

営業利益増減分析【前年同期対比】

(単位: 億円)



經常利益・当期利益【前年同期対比】

(単位：億円)

	FY10上期 実績①	FY11上期 実績②	差 ② - ①
営業利益	69	342	+273
営業外損益	1	- 109	- 110
經常利益	70	233	+163
特別損益 及び法人税等	- 119	- 127	- 8
当期利益	- 49	106	+155

主な内訳

・為替差損益 -119
(10上:27、11上:-92)

主な内訳

・特別損益 + 24
(10上:-34、11上:-10)
・法人税等 - 36
(10上:-65、11上:-101)

貸借対照表【前年度末対比】

(単位：億円)

	FY10末 ('11/3月末)	FY11 2Q末 ('11/9月末)	増減
資産合計	13,125	12,369	- 756
うち 現金預金	3,171	2,930	- 241
売上債権	1,144	1,150	+6
たな卸資産	1,893	1,722	- 171
有形固定資産	3,836	3,650	- 186
負債合計	10,644	10,048	- 596
うち 仕入債務	2,786	2,687	- 99
有利子負債	3,979	3,615	- 364
純資産合計	2,481	2,321	- 160

2011年度通期業績見通し 地域別販売台数計画【6/13公表値対比】

日本	北米	欧州	アジア・その他地域	合計
----	----	----	-----------	----

《6/13公表値対比増減》

- 6
(- 3%)

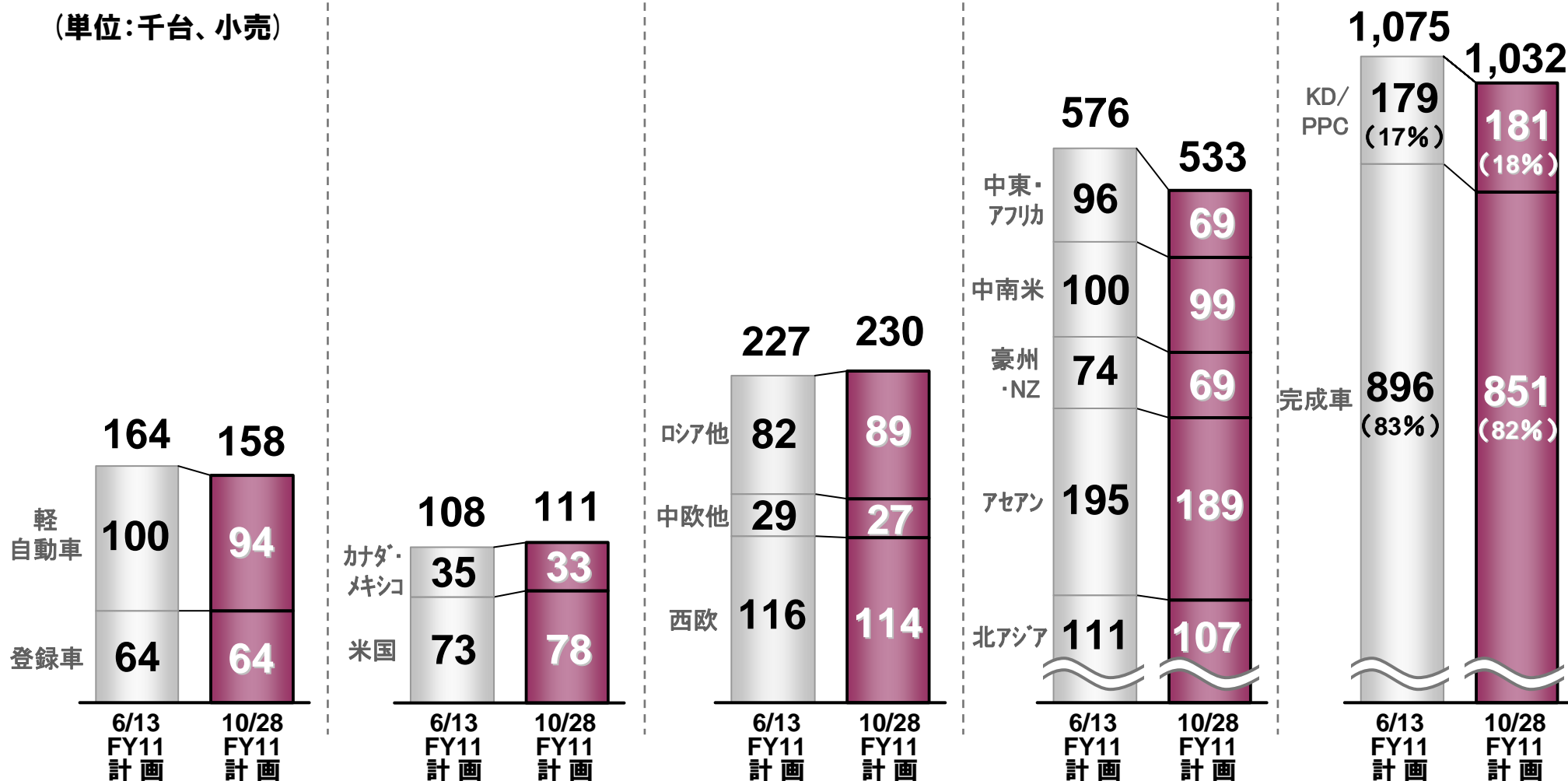
+3
(+2%)

+3
(+1%)

- 43
(- 7%)

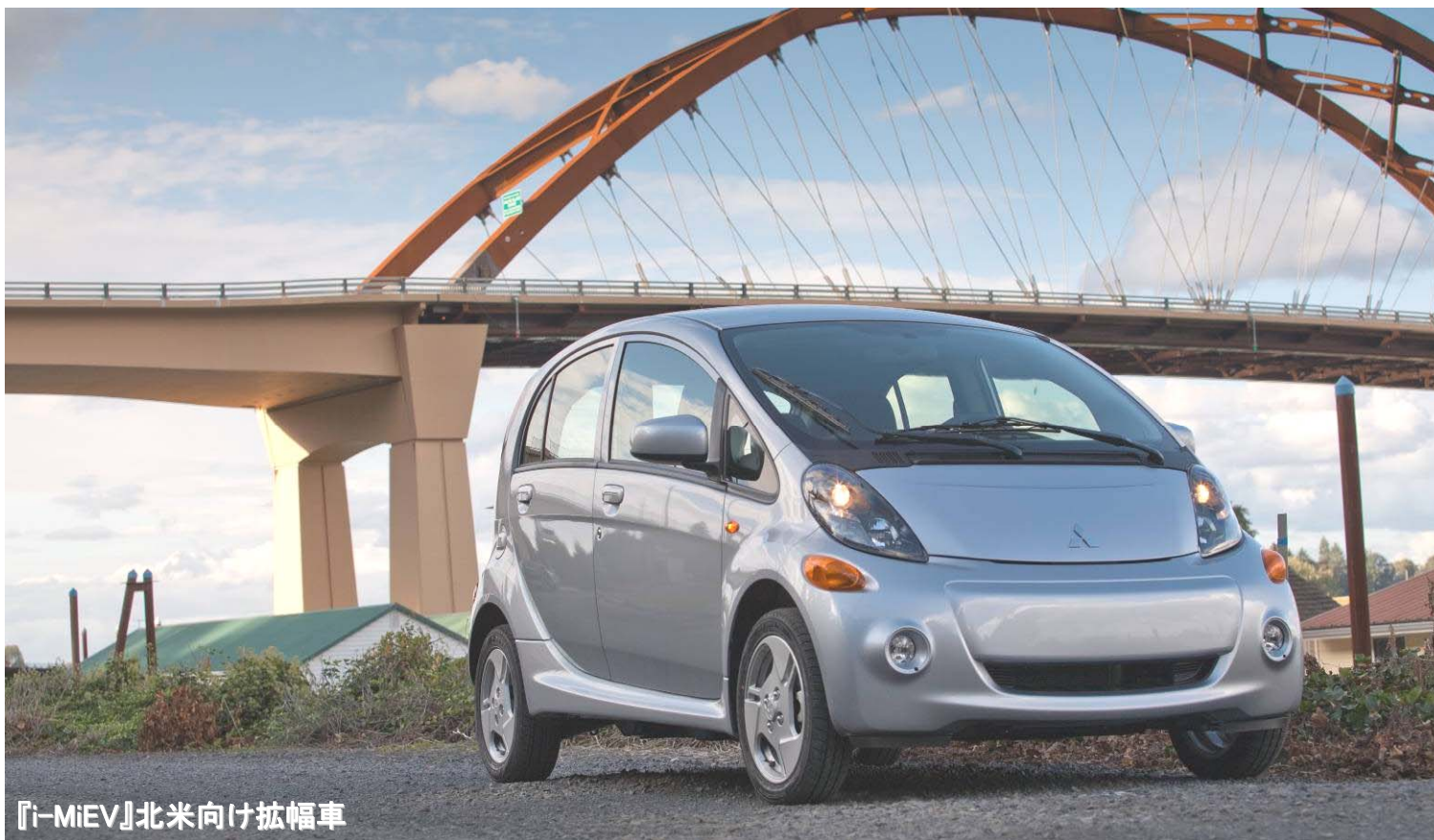
- 43
(- 4%)

(単位:千台、小売)



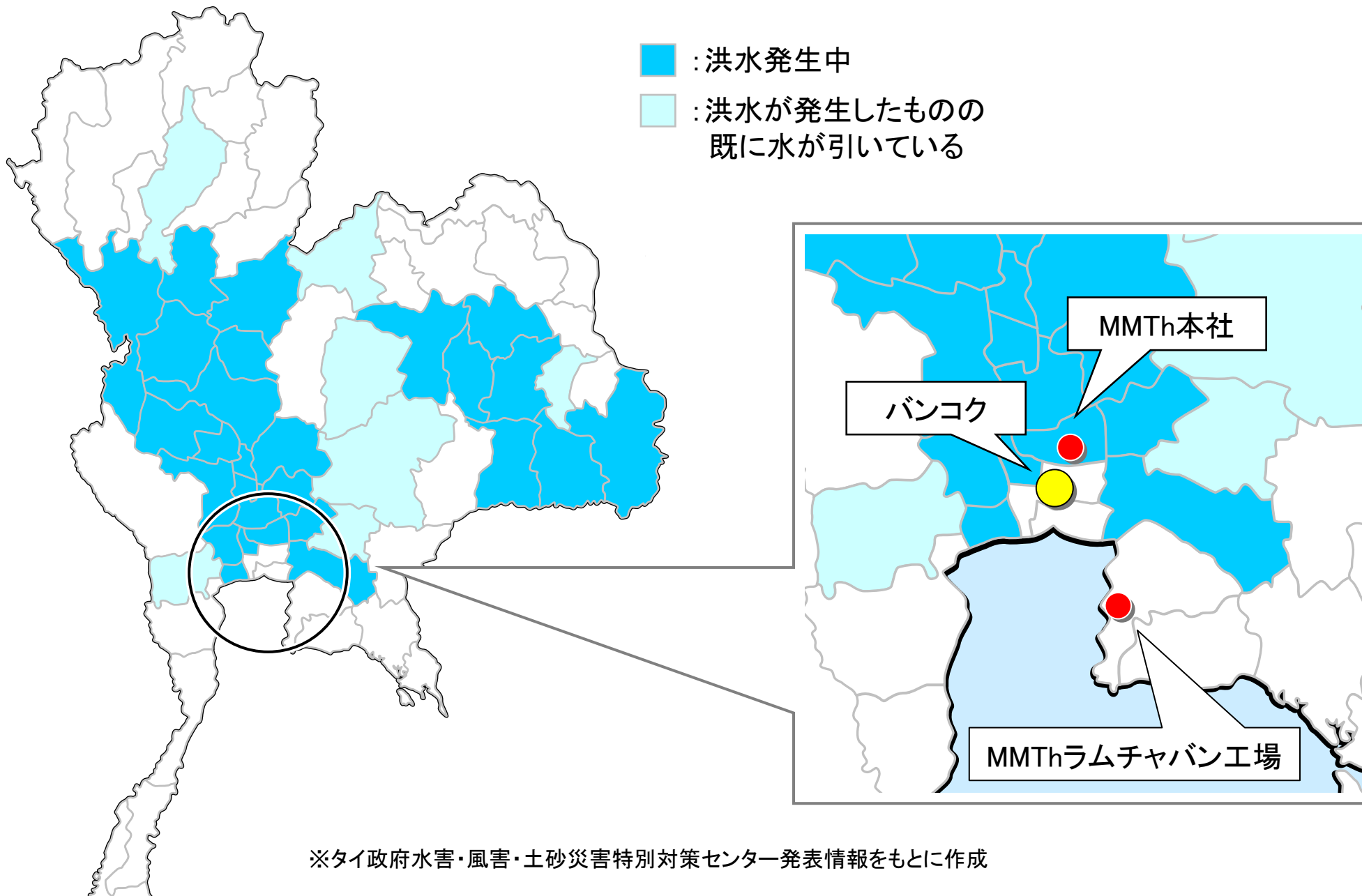
※注) 販売台数は11年度から新カウント方式採用。(添付資料ご参照)

激変する事業環境に対する当社の取り組み

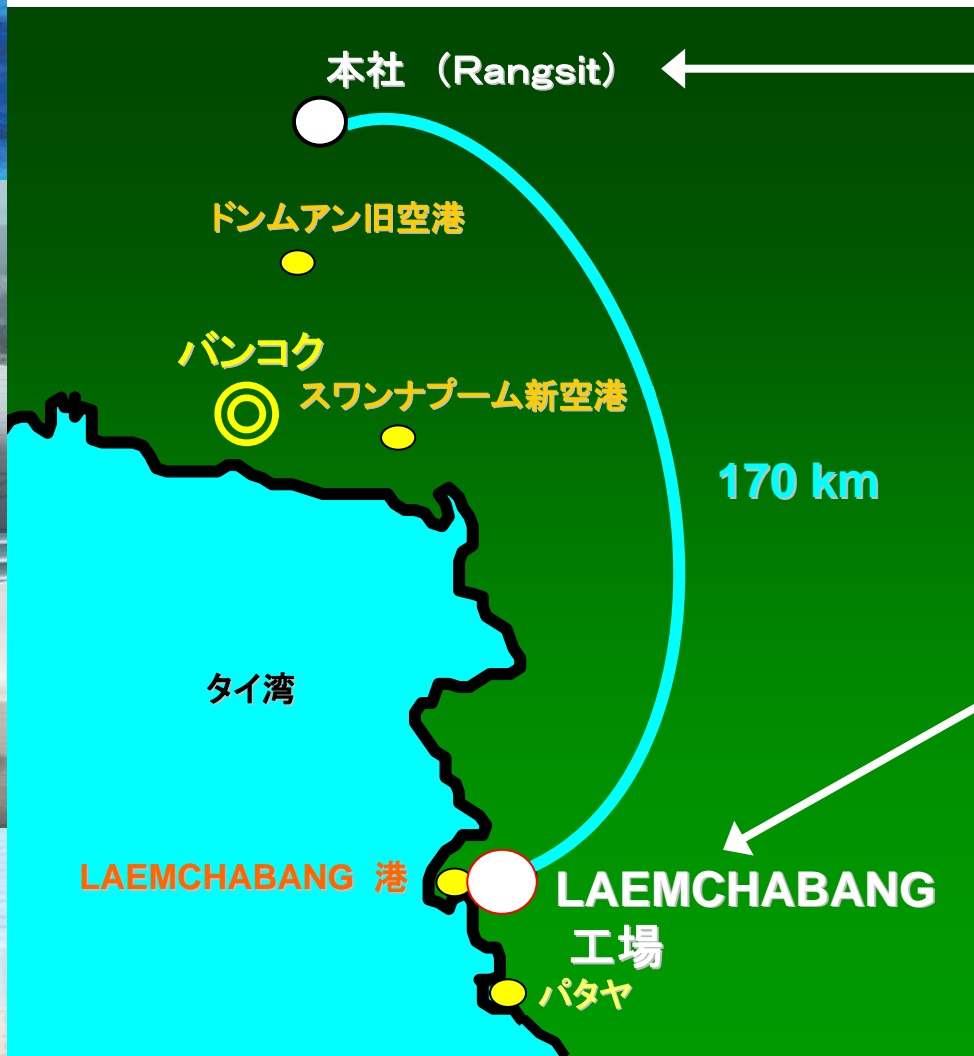


益子 修
取締役社長

タイ 洪水被害状況



タイ MMTh社所在地および生産車種



タイでの洪水の影響

- 当社子会社MMTh社※ラムチャバン工場の施設に直接的な被害の発生はない
操業停止期間 10月13日夜勤～10月29日 減産影響11.6千台(10月28日時点)

- MMTh本社は安全な場所に本社機能を移し業務継続中

- 今後部品供給停止が続いた場合の影響

タイから部品供給を受けている日本の工場やKD工場への波及の可能性

※MMTh社:Mitsubishi Motors (Thailand) Co, Ltd. (三菱自動車100%出資の生産・販売会社)

LAEMCHABANG工場 所在地:バンコクの南東、チョンブリ県 生産実績: 20万台(2010年度)

本社 所在地:バンコクの北、パトゥムタニ県

当社の対応

- 主力商品「トライトン」「パジェロスポーツ」を生産するタイ工場は最重要拠点のひとつ
- お取引先の復旧サポート、代替部品の調達先確保を最優先に取り組み中
- ラムチャバン工場の生産見通し
 - ・ 10月中旬以降約1ヵ月半程度のライン休止も視野に入れ、状況を見極めていく。
 - ・ 正式には、当社ウェブサイトですぐに都度操業状況を公表する。
 - ・ お取引先を始め関係者のご協力を得て、1日も早い生産回復とその後の生産挽回に向け全力で取り組む。
 - ・ 1ヵ月半停止した場合の台数影響見込み 約35千台（対洪水前生産計画）

■ 2011年度第2四半期累計実績

**歴史的円高の厳しい事業環境ながら、前年同期比台数増、増収、増益
～営業利益・経常利益は過去最高、当期利益は黒字化～**

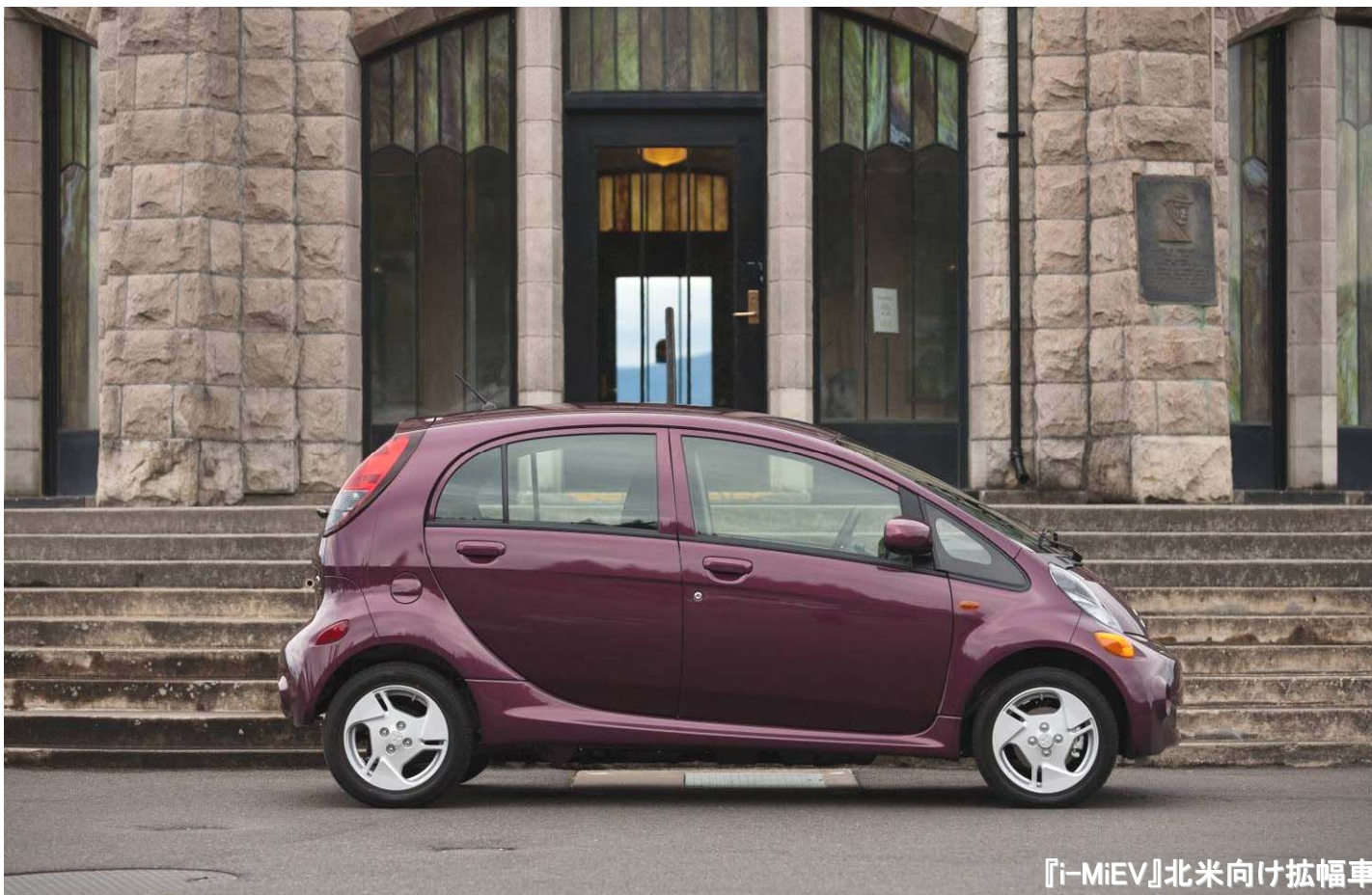
- 小売台数は、北米、欧州、アジア他の3地域で増加し、519千台(前年同期比+9%)
- 卸売台数は、北米、欧州、アジア他の3地域で増加し、530千台(前年同期比+2%)
- 売上高は、卸売台数増加で為替の円高影響を吸収し増収(前年同期比+5%)
- 営業利益は前年同期比約5倍・経常利益は3倍超となり過去最高益、当期利益は黒字化

■ 2011年度通期見通し

**円高・洪水影響を費用削減・コスト低減等で打ち返し、期初利益目標を堅持
～引き続き前年度比増益を目指す～**

- 販売台数計画：小売 1,032千台(前年同期比+5%) 卸売 1,094千台(同±0%)
- 業績目標：期初利益目標を堅持し、引き続き前年度比増益を目指す
- 円高影響・タイ洪水影響を費用削減・コスト低減等で打ち返す
- タイ、ラムチャバン工場の1日も早い生産回復とその後の生産挽回に全力で取り組む

添付資料



『i-MiEV』北米向け拡張車

台数カウント定義の変更について【お知らせ】

変更内容

■ 新カウント(2011年度から)

・小売台数：自社ブランド車のみを小売台数とする。

「ロシア・ウクライナ」を「ロシア他(ロシア・ウクライナ・カザフスタン)」へ変更。

・卸売台数：卸売台数にOEM供給台数を含める。

■ 旧カウント(2010年度以前)

・小売台数：当社が設計した商品で、ロイヤリティ収入がある場合は他社ブランドも小売台数に含める。

・卸売台数：OEM供給台数を除く。

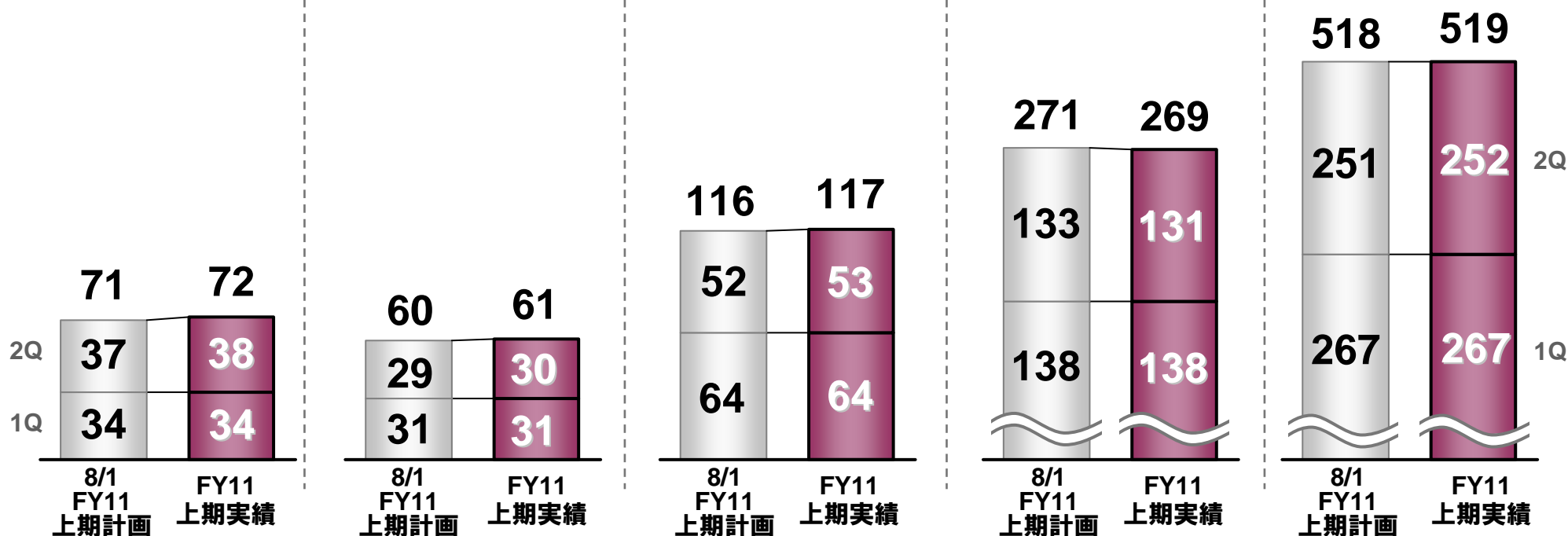
FY2010 2Q累計
(実績)

	<u>旧カウント</u>		<u>増減台数</u>		<u>新カウント</u>
小売台数	527千台	-	51千台	=	476千台
卸売台数	495千台	+	26千台	=	521千台

地域別販売台数実績【四半期別6ヵ月累計、8/1公表値対比】

日本	北米	欧州	アジア・その他地域	合計
《8/1公表値対比増減》				
+1 (+2%)	+1 (+1%)	+1 (+1%)	-2 (-1%)	+1 (±0%)

(単位:千台、小売)

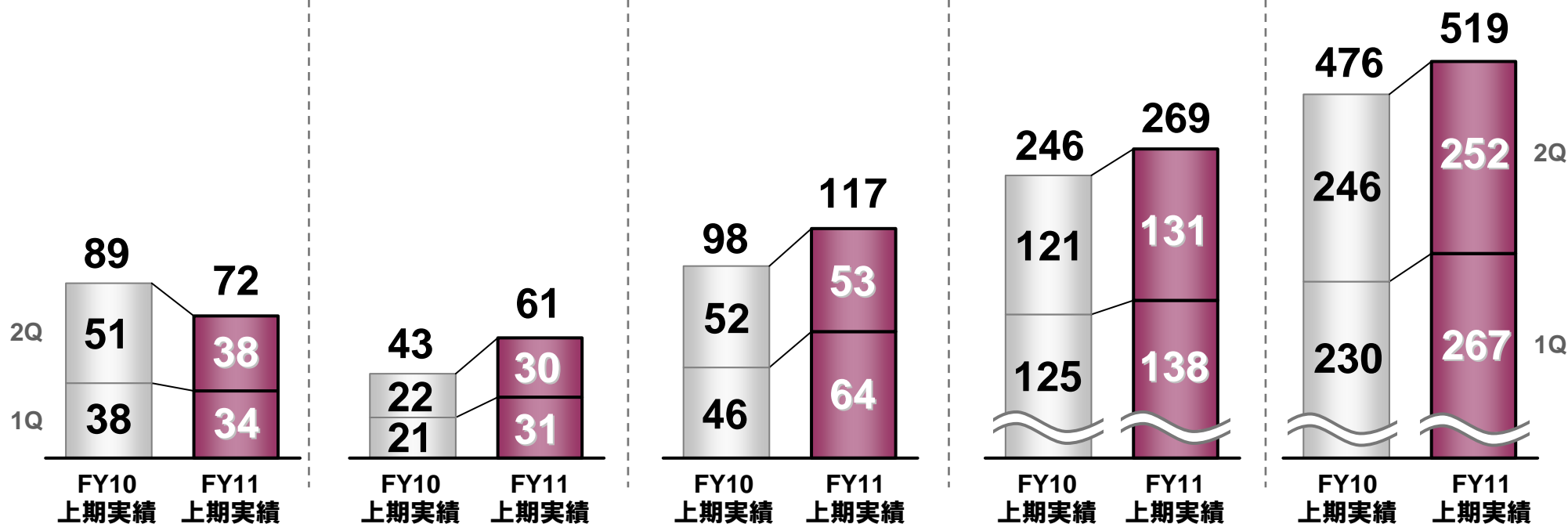


※注) 販売台数は11年度から新カウント方式採用。(添付資料ご参照) 11年度第2四半期販売台数実績は速報値。

地域別販売台数実績【四半期別6ヵ月累計、前年同期対比】

日本	北米	欧州	アジア・その他地域	合計
《前年同期対比増減》				
-17 (-19%)	+18 (+41%)	+19 (+20%)	+23 (+10%)	+43 (+9%)

(単位:千台、小売)



※注) 販売台数は11年度から新カウント方式採用、10年度実績も新カウントへ置き換え済み。(添付資料ご参照) 11年度第2四半期販売台数実績は速報値。

2011年度第2四半期累計期間 地域別業績【前年同期対比】

(単位：億円)

	FY10上期 実績 ①	FY11上期 実績 ②	増減 ②-①
売上高	8,647	9,075	+428
- 日本	1,911	1,634	-277
- 北米	821	971	+150
- 欧州	2,264	2,542	+278
- アジア・その他	3,651	3,928	+277
営業利益	69	342	+273
- 日本	23	10	-13
- 北米	-137	-120	+17
- 欧州	-193	-88	+105
- アジア・その他	376	540	+164

2011年度第2四半期累計期間 四半期別業績サマリー

(単位: 億円, 千台)

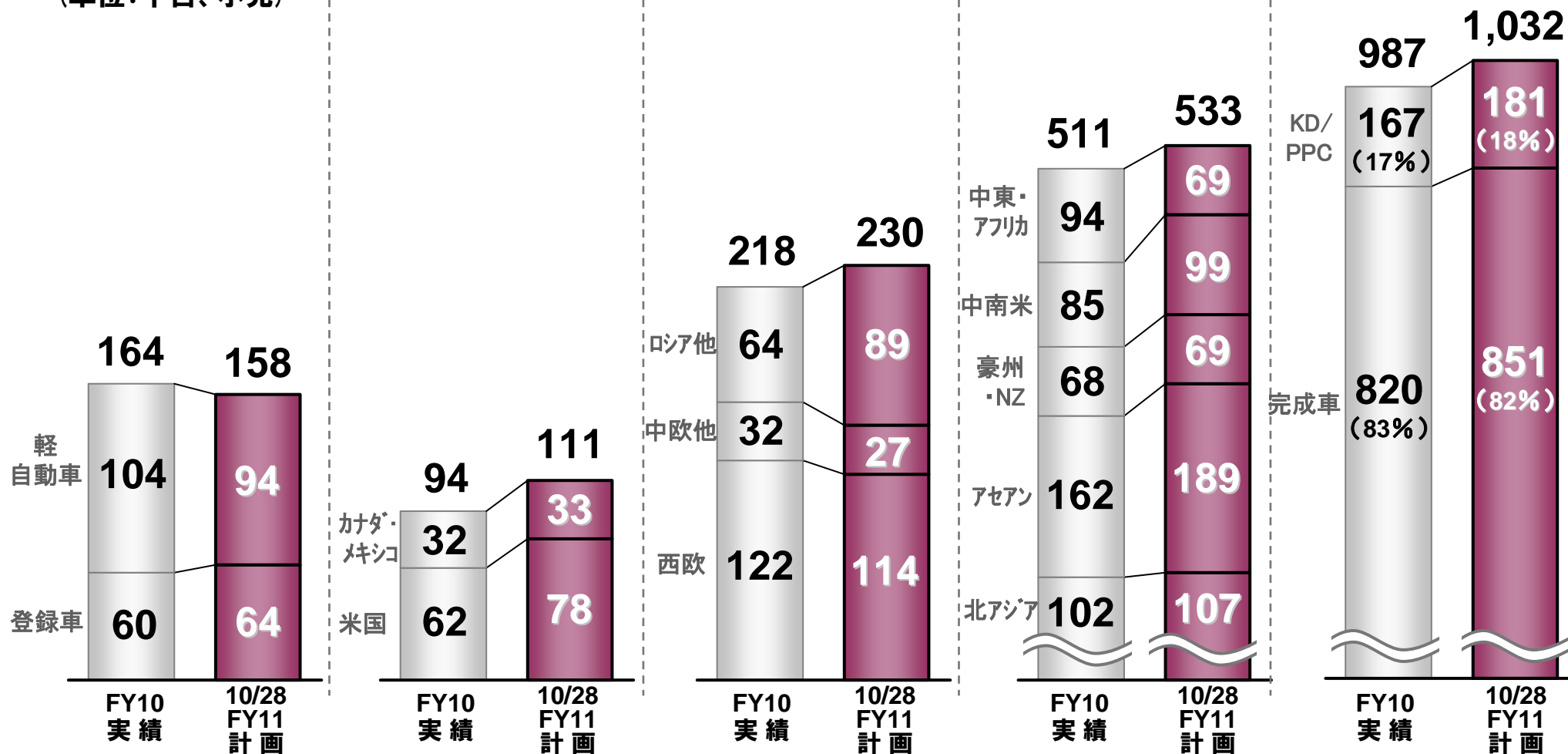
	FY11 1Q ('11/4-6)	FY11 2Q ('11/7-9)	FY11 上期 ('11/4-9)
売上高	4,319	4,756	9,075
営業利益	122	220	342
経常利益	103	130	233
当期利益	43	63	106
販売台数 (小売)	267	252	519
販売台数 (卸売)	252	278	530

※注) 販売台数は11年度から新カウント方式採用。(添付資料ご参照) 11年度第2四半期販売台数実績は速報値。

2011年度地域別販売台数計画【前年度対比】

日本	北米	欧州	アジア・その他地域	合計
《前年度実績対比増減》				
-6 (-3%)	+17 (+18%)	+12 (+5%)	+22 (+4%)	+45 (+5%)

(単位:千台、小売)

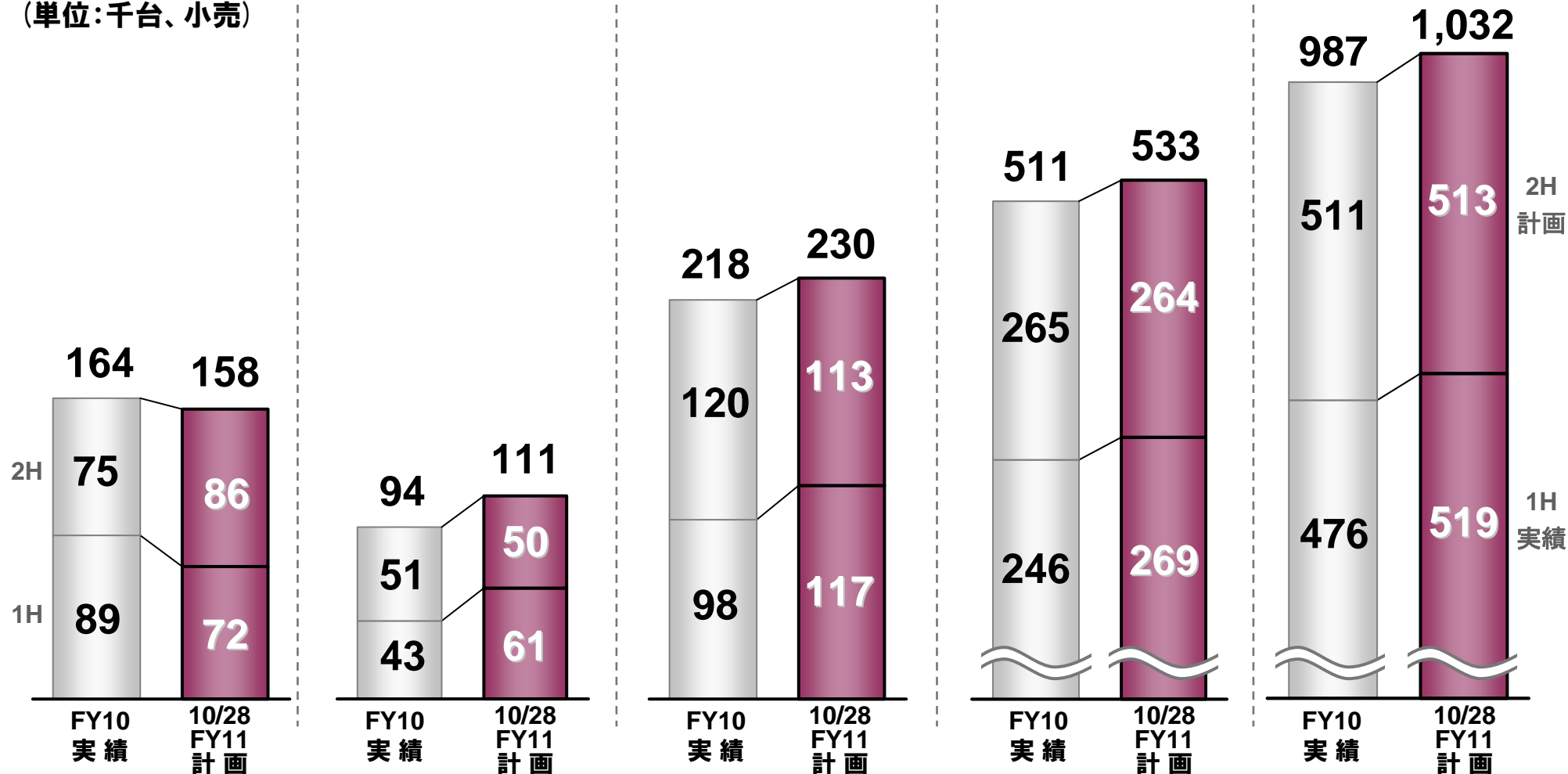


※注) 販売台数は11年度から新カウント方式採用、10年度実績も新カウントへ置き換え済み。(添付資料ご参照)

2011年度地域別販売台数計画【前年度対比】

日本	北米	欧州	アジア・その他地域	合計
《前年度実績対比増減》				
-6 (-3%)	+17 (+18%)	+12 (+5%)	+22 (+4%)	+45 (+5%)

(単位:千台、小売)



※注) 販売台数は11年度から新カウント方式採用、10年度実績も新カウントへ置き換え済み。(添付資料ご参照)

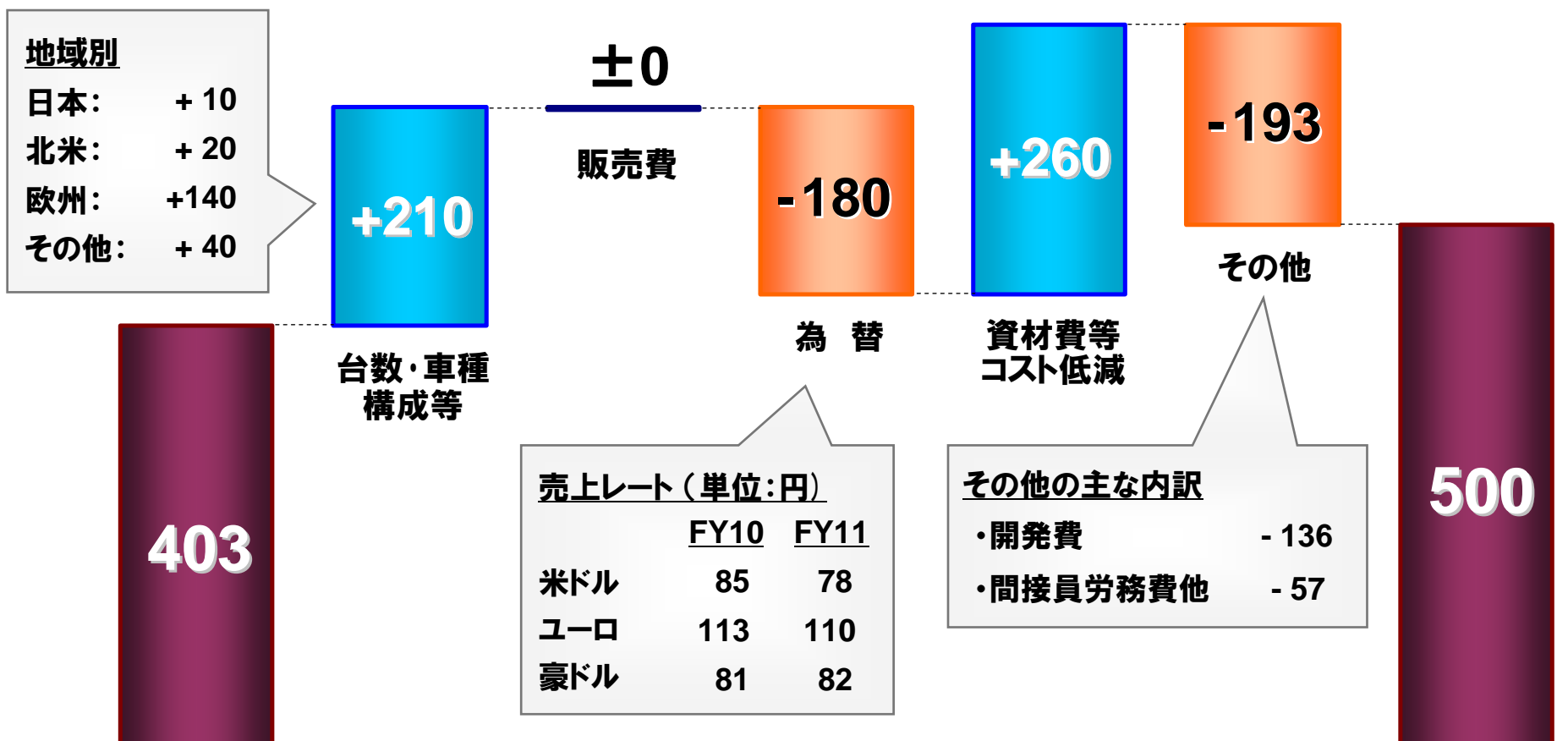
2011年度営業利益見通し増減分析 【前年度対比】

(単位: 億円)

FY10
実績



10/28
FY11
見通し



2011年度地域別業績見通し【前年度実績・6/13公表値】

(単位：億円)

	FY10 実績	FY11 6/13公表値	FY11 10/28公表値
売上高	18,285	19,500	18,200
- 日本	3,633	3,700	3,700
- 北米	1,898	1,900	1,800
- 欧州	4,900	5,100	4,600
- アジア・ その他地域	7,854	8,800	8,100
営業利益	403	500	500
- 日本	51	70	90
- 北米	-279	-330	-310
- 欧州	-264	-170	-210
- アジア・ その他地域	895	930	930

2011年度下期の主要市場における取り組み

■ 日本

- ・ 新型MIVECエンジン & アイドリングストップ機能搭載車の投入(10月)
- ・ ラインナップ強化の「デリカシリーズ」、重点車種「RVR」「アウトランダー」の拡販
- ・ 大幅改良・2グレード展開「i-MiEV」の拡販、12月「MINICAB-MiEV」の投入

■ 米国

- ・ 主力車種「アウトランダースポーツ」拡販と現地生産準備
- ・ 拡幅版北米仕様「i-MiEV」の投入(11月)



MINICAB-MiEV

■ 欧州

- ・ 商品力を強化した好評な「ASX」拡販
- ・ EVおよび低CO₂化を進めた主力車種の拡販



日本名:RVR
欧州名:ASX

米国名:アウトランダースポーツ

■ 中国

- ・ 広州汽車との新合併会社設立推進
- ・ 好評のSUV系車種の拡販

■ タイ

- ・ 第3工場建設と「グローバルスモール」の円滑な立ち上がり

■ ブラジル

- ・ IPI(工業製品税)引き上げの影響見極め



三菱 コンセプト グローバル スモール

歴史的円高への対策強化

- 足下では、主に以下の通り円高対策を強化し、損益挽回を図ってきた。
 - ① コスト低減・費用削減の上積み ② 海外調達の拡大 など
- 今後も国内工場を維持していく基本方針に変更はない。

長期化に備えた対策

- 為替の影響を受けにくい体制の構築が、これまでに増して急務
- 「ジャンプ 2013」で掲げた「新興国での生産拡大」および「海外調達の拡大」を加速
 - 「新興国での生産」:消費地に近い場所での生産増 アセアン市場を重点的に拡大
 - 「海外調達の拡大」:海外調達比率2010年度18%⇒2013年度25%目標を加速

日産自動車と国内OEM事業の拡大で合意

- 日産自動車から上級セダン『フーガ』の供給を2012年夏より開始
- 日産自動車へ軽商用電気自動車『MINICAB-MiEV』の2012年度中の供給実現に向け検討開始



『MINICAB-MiEV』(実証試験車)

プロトン社との協業拡大

新たに検討を進めている協業プロジェクト

- マレーシアでのエンジン共同生産
- 三菱自動車向け車両のプロトン社での生産
- 「グローバルスモール」と、プロトン社新型小型車の主要コンポーネントの共用化
- EV/PHEVなどの将来技術の供与



三菱 コンセプト グローバル スモール

新型MIVECエンジン及びアイドリングストップ機能を開発

新型MIVECエンジン

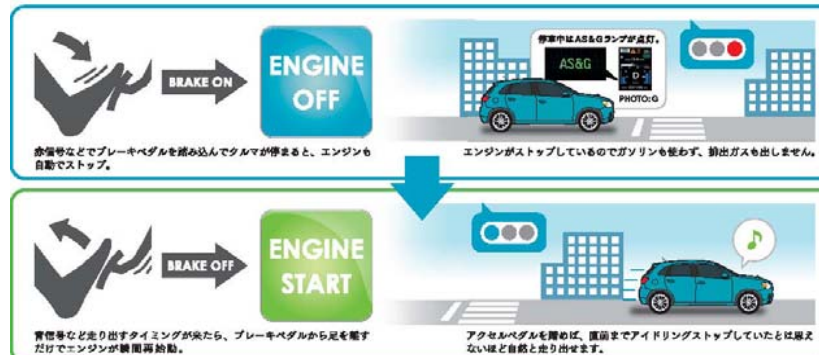


4J10型 1.8L MIVECエンジン

+

アイドリングストップ機能

AS&G 作動イメージ 特別な操作は必要ありません。これまでのアイドリングストップ機能が付いていないクルマと同じ感覚で運転するだけで、ストレスなく、この新しい減速効果の力が発揮できます。



「オートストップ&ゴー(AS&G)」をCVT搭載車向けに新開発

各車で約12%の燃費向上(10・15モード燃料消費率で比較)を実現



『RVR』



『ギャラン フォルティス』



『ギャラン フォルティス スポーツバック』

5ナンバーミニバン デリカ D:3 発売

DELICA D:3

いろいろ 使える、5ナンバーミニバン。



自在に

39 パターン*
(7人乗り)
いろいろ使える、
シートアレンジ!

室内高

1.305m
地面から荷台まで

0.51m
高い天井、低い床で
ひろびろ室内!


5 ナンバー
なのに

7 人*
乗り!
両側スライドドアで、
乗り降りもスムーズ!


4.4m の全長
最小回転半径は

5.2m
小回りがきいて、
運転ラクラク!



世界戦略車『グローバルスモール』の投入

■ 『グローバルスモール』のコンセプト

- ・ 「小型」「低価格」「低燃費」の世界戦略車
- ・ 需要の伸長が見込まれる新興国、
ダウンサイジング化が進む先進国双方へ投入
- ・ 三菱モデルラインナップのエントリーモデル
大人5人の居住空間を確保したスモールカー
- ・ 新開発1.0ℓ & 1.2ℓ 3気筒エンジン +
可変バルブタイミング機構 (MIVEC※1)
アイドルストップシステム (AS&G※2)
減速エネルギー回生システム
空気の抵抗低減と車体の軽量化

■ 生産工場

- ・ タイに建設中のMMTh第3工場
- ・ 中国での現地生産を推進

■ 販売開始

- ・ まず、タイ市場に投入
- ・ その後、タイから世界各国へ出荷



『三菱 コンセプト グローバル スモール』



MMTh 建設中の新工場 (2011年10月)

※1 MIVEC : Mitsubishi Innovative Valve timing Electronic Control system

※2 AS&G : Auto Stop & Go

電気自動車の展開拡大

	2009年度 販売実績: 1.6千台	2010年度 販売実績: 8.2千台	2011年度 販売計画: 21千台(国内8千台、海外13千台)
日本	<p>・フリート販売 09年7月～</p> <p>『i-MiEV』</p>  <p>販売実績: 1.4千台</p>	<p>・一般販売 10年4月～</p> <p>販売実績: 2.6千台</p>	<p>・「M」「G」の2グレード展開 11年7月～</p>  <p>軽商用電気自動車 『MINICAB-MiEV』 11年12月～(予約受付中)</p> <p>軽商用EV</p>
	海外	<p>09年秋～</p>  <p>欧州向け『i-MiEV』</p> <p>販売実績: 0.2千台</p>	<p>右ハンドル車(香港、イギリス他)</p> <p>10年10月～</p> <p>欧州(左ハンドル市場含む)</p> <p>PSAプジョー・シトロエン社向け</p> <p>販売実績: 5.6千台</p>

電気自動車の普及へ向けて

電気自動車なら、“運ぶ”が全て新しくなる。

MINICAB - MiEV 2011年内にデビュー予定



Photo:実証試験車



積載性	最大積載量はガソリン車と同じ350kg(2名乗車時)	たっぷりスペースで荷物がしっかり積める
走行性	モーターは、ゼロ回転から最大トルクを発生	重い荷物を積んでも発進ラクラク
静粛性	モーターだからとっても静か	早朝や深夜でも騒音が気にならない
信頼性	i-MiEVで培った技術が活かしている	毎日安心して乗ることができる
経済性	ガソリン不要でランニングコストを軽減	電気代だけで、経済的

本資料に記載されている将来に関する記述を含む歴史的事実以外のすべての記述は、現時点における当社の予測、期待、目標、想定、計画、評価等を基礎として記載されているものです。また、予想数値を算定するために、一定の前提(仮定)を用いています。これらの記述または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証や将来その通りに実現するという保証はありません。これらの記述または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり、将来実現しない原因となるリスク要因や不確定要因のうち、現在想定しうる主要なものとしては、本計画の各種目標・各種施策の実現可能性、金利・為替・原油価格の変動可能性、関係法令・規則の変更可能性、日本国内外の経済・社会情勢の変化可能性等があげられます。

なお、潜在的リスクや不確定要因はこれらに限られるものではありませんので、ご留意ください。また、当社は、将来生じた事象を反映するために、本資料に記載された情報を更新する義務を負っておりません。投資に関する最終的な決定は、投資家の皆様ご自身の責任をもってご判断ください。本資料に記載されている情報に基づき投資された結果、何らかの損害が発生した場合でも、当社は責任を負いかねますので、ご了承ください。

Drive@earth



mitsubishi MOTORS